

□ 見学旅行参加レポート

福岡駐車協会
中央地所株式会社
課長 大高圭司

6月13日(水)、曇天でしたが気温18度と逆に涼しく心地よい天候の中、仙台ロイヤルパークホテルにて開催された「第51会通常総会」は、滞りなく終了いたしました。

通常総会の後に、(株)河北新報社論説委員長鈴木素雄様の講演があり、先の3.11東日本大震災についてその瞬間から現在に至るまで現場で直接体験なされた内容を大変熱く語って頂きました。約1時間半にわたる講演でしたが皆さん深く聞き入っておられました。

翌6月14日(木)、見学旅行の最初はまさに津波で家を流された地域の見学です。鈴木様の話をお願いつつバスに乗り込み見学旅行がはじまりました。

6月14日(木)

午前

■仙台復興地区視察

しちがはままち しょうぶたはま
・七ヶ浜町(菖蒲田浜)

まず最初に向かったのが、菖蒲田浜です。宿泊場所の仙台ロイヤルパークホテルは仙台市の中でも西側の丘陵地にあるのですが、ここを出発して東側(海沿い)へバスで約30分。目的地に近づくにつれ震災の被害にあった家々が車窓より見えてきました。地震により屋根が損傷し、既に修理を終わった家々を見ながら更にバスは進み、海の近くまでくると、ある所から家のない景色にかわりました。3.11以来テレビで何度も目にした、家が津波に流され基礎だけがのこった光景です。

思わず携帯のGoogle MAPでこの地域を見てみたのですが、地図上には普通に家があり店があり街並みがあります。ところが実際の光景に目を向けるとそれが無いのです。

何度もテレビや新聞等のメディアを通じ見てきた光景ですが、実際に自分でみると、その津波の脅威を改めて感じさせられるとともに復興の難しさを感じました。

ここではバスから降りず車窓からの見学で、そのまま次の目的地であるマリングート塩釜に向かいました。

・マリングート塩釜

仙台の有名どころのひとつである「松島」。宮城県の松島湾内外にある大小260余りの諸島であり日本三景の一つに数えられています。仙台市から北東側に位置します。

そして今回訪れたマリングートは、その松島の観光船が発着する3階建のターミナルビルで、中には乗船ゲートや待合所はもちろん、20以上のレストランや名産品店などが並び、会議室・研修室なども備えた多目的のスポットです。



ここも3.11の被害にあっており、建物の1階部分が水に浸かったとのことでした。最近になっ

てようやくその1階部分の半分程度のスペースが営業を開始できたとのことです。まだ破損した駐車場や建物内の補修工事中で、7月1日の完全営業再開に向けて作業員の方が頻繁に出入りする状態でした。

駐車場については、日本三景の観光地の基点にしてはさほど広くはない点、やや意外に感じながら見学しました。

・塩竈神社

次に訪れたのは、先のマリゲート塩釜からバスで約5分。同じ塩竈市内にある塩竈神社です。ここは古くから東北鎮護・陸奥国一之宮として朝廷を始め庶民の崇敬を集めて今日に至ったそうです。全国にある塩竈神社の総本社であり、平成14年には国の重要文化財に指定されています。境内は27ヘクタールと大変広いもので、小高い丘陵地にあり、境内に向かうには2か所の階段があります。急な階段をのぼる「男坂」と、ゆるく長い階段を上る「女坂」。今回はバスの駐車場から近い「女坂」を使って境内に向かいました。多くの木々に囲まれた中にある赤色の美しい社殿に見入りつつ参拝を済ませました。



・浦霞酒ギャラリー

さて塩竈神社を後にしバスで約5分。宮城の酒で有名な「浦霞」の蔵元を訪れました。創業1724年とのことでなんと288年前！大変な歴史を感じさせられます。店内に入ると、棚には約20種類の「浦霞」がずらっと並んでいます。一番の看板商品は「純米吟醸 浦霞 禪」。ずらっと並ぶなかでも特に目立つ場所に陳列しており、興味深く見ている方も多くいらっしゃいました。



店内では試飲コーナーもあり、これを楽しまれている方も多かったようです。残念ながらビール党の私はこの楽しみが味わえませんでした・・・

〈純米吟醸 浦霞 禪〉

ほどよい香りとまろやかな味わいのバランスのとれた純米吟醸酒。あっさりした細めの酒だが、ほのかにメロンのような香りをたたえ、後口のゆったりとした甘みにくつろぎを感じさせてくれる。引きの良さを備えた、広く食中に向く酒である。

○種類：純米吟醸酒 ○原料米：トヨニシキ・山田錦

○アルコール分：15度以上16度未満 ○容量：720ml ○価格：2,268円

(浦霞醸造元：株式会社佐浦 公式ウェブサイトより)

昼食

・平泉（ゆめやかた奥州藤原歴史物語） ～前沢牛御膳～

仙台近郊を後にしバスで約2時間程度移動。岩手県へ入り平泉地区へ。そして中尊寺へ到着しました。

食事の前のわずかな時間でしたが、中尊寺の駐車場においてその駐車場システムを納入された、アマノ株式会社様より当システムの説明を受けました。4ヶ所ある駐車場の満車・空車状態

をパネルに表示するシステムです。本来自動表示も可能なのですが、観光地の駐車場という特性からあえて人の手による表示システムを採用したとのことでした。



その後「ゆめやかた奥州藤原

歴史物語」という建物に移り昼食となりました。この昼食会場は、歴史館の中にあるレストランです。初代藤原清衡が築き、基衡、秀衡時代に黄金期を迎え、泰衡時代に滅亡した奥州藤原氏。平泉を舞台に栄華を極めた百年間の歴史をロウ人形を中心に再現し、居ながらにして当時の歴史を体感できる画期的な歴史館です。

ロウ人形館はスケジュールに入っていないため残念ながら見学できませんでしたが、前沢牛をおいしく頂き皆さん満足されていらっしゃるようでした。

午後

・中尊寺見学（本堂・金色堂・讚衡蔵）

さて、前沢牛で力を蓄え、中尊寺の見学へ。

平泉中尊寺は、天台宗東北大本山で「関山」と呼ばれる小高い山全体に、本寺の中尊寺と17の子院から成る寺院です。12世紀はじめに奥州藤原氏の初代清衡公が造営したもので、その趣旨は「前九年、後三年の役という長い戦いで亡くなった人の霊をなぐさめ、極楽浄土を実現する」というものだったそうです。

広い敷地内をガイドさんの後について、讚衡蔵・金色堂・本堂と順にまわります。初めて訪れた私にとって最も印象深かったのはやはり「金色堂」です。

写真にある建物は、金色堂を保護するために1965年に建築されたもので覆堂などと呼ばれます。この中にガラスケースに納められた「金色堂」があります。

堂内は撮影禁止のため写真を撮ることはできませんでしたが、覆堂に入ると幅5.5m四方・高さ8m程の金箔で覆われた御堂があり、その中にこれも金箔で覆われた阿弥陀如来像を中心に11の仏像が並びます。空気を遮断するためのガラスケースの中で黄金に輝く仏像と御堂及びその装飾、その前では多くの人が足をとめ、その美しさに見入っていました。

この後中尊寺を後にし、ほど近い位置にある、源義経終焉の地といわれる「高館義経堂」、中尊寺と並び平泉町を代表とする寺院である「毛越寺」を散策。なお、この「毛越寺」や「中尊寺」は2011年6月にユネスコ（国連教育科学文化機関）の世界遺産に登録されています。2008年には一度世界遺産登録が延期されたそうで、3年後の再挑戦での悲願達成だったそうです。また、それはくしくも東日本大震災から3ヶ月後の決定となり、復興を目指す東北に光明をもたらした出来事の一つだったそうです。



夕食・宿泊

・花巻温泉／ホテル千秋閣

宿泊の「ホテル千秋閣」は客室168のホテルで、隣接する「ホテル花巻（客室100室）」・「ホテル紅葉館（客室131室）」と連絡通路でつながっており、それぞれの温泉を楽しめるという特徴があります。

到着後それぞれ客室へ。温泉で疲れを癒した後、浴衣姿で夕食会場である宴会場にあつまり、地元の食材を中心とした料理を賞味しつつ、親睦をはかりました。



余談ですが、ホテルには修学旅行中の小学生の団体がなんと5団体も宿泊しておりました。ホテルのロビーや廊下、いたるところに小学生が…、また浴場にも30人以上の小学生が入浴中であいへん賑わいをみせておりました。先生方やホテルの方々は「騒がしくてすみません…」と恐縮されていましたが、小学3年生の我が子も学校ではこんな感じで楽しんでいるのかな…と思いつつ、微笑ましい光景を楽しませて頂きました。

6月15日（金）

午前

2日目の朝を迎え、朝6時30分起床。天気は昨日同様曇天でしたが、雨の心配はない模様。8：15にホテルを出発しこの日最初の見学地である「関東自動車工業(株)(現トヨタ自動車東日本(株)岩手工場」へ向かいました。

・関東自動車工業(株)岩手工場 見学

ここで主に生産されるのは今話題の小型ハイブリッドカー、トヨタ「アクア」です。最近路上でよく見かける「プリウス」よりもコンパクトサイズで、排気量1.5ℓのエンジンにモーターを組み合わせたハイブリッドシステム等によりその燃費はなんと37.0～40km/ℓ(10・15モード)を誇ります。

このアクア他「ラクティス」「イスト」といった小型車を中心に生産している当工場ですが、その生産台数は1日になんと1,758台。また、その8割が「アクア」だそうです。昨年12月の発売から大変順調な受注を受け、これだけ生産しても今では追い付かない状態とのことで、今注文しても納車されるのは10月以降になるとのことでした。

工場内を2グループに分かれ歩いて見学。その長いラインは ①骨組みを作る「ボデー工程」②塗装工程 ③組立工程 ④検査工程 に分かれており、最初は車の形をした骨組みから、様々な部品が取り付けられ車が出来上がっていくまでを詳しい説明を受けながら見学することができました。

なお、当工場も3.11の時にはやはり地震の被害にあわれており、直後から工場はストップし再稼働できたのが1ヶ月以上経過した4月18日だったそうです。自ら被害にあいつつも、津波によりもっと大きな被害となった海岸近くの地域へ、社員の方が交代で車を走らせ食料他の支援物資を運び続けたそうです。その移動のガソリン代はもちろん会社が負担し、会社と社員の方々が一体となって救援活動を継続されたということで、大変心を打たれました。

昼食

・ちよくりあん直利庵 ～わんこそば～

再びバスで盛岡市内へ移動。時間にして約1時間。昼食会場である「直利庵」へ到着。メニューは盛岡名物のわんこそばです。

お店の中に案内されそれぞれ座席につくと、目の前にはそば用のお椀や数種類の薬味が準備してあるのですが、なぜか箸置きとしてマッチ箱が置いてあるのに気付きます。店内禁煙なのになんでマッチ箱？と思っていると給仕さんから説明が始まります。何杯食べたかわかるようにお代わりするごとにマッチ棒を食卓に並べるのだそうです。

そうこうしているうちにわんこそばスタート。お椀の中には一口分位のそばがあり、これに好みの薬味を乗せてツルっと食べます。そして給仕さんに向かって「お代わりっ」という感じでお椀を差し出すと「ハイッ、ジャンジャン」「ハイッ、ドンドン」といった威勢のいい掛け声とともに、差し出したお椀にお代わり分をついでくれます。これを皆さん競い合うようにどんどん繰り返していくわけです。

私は35杯でギブアップ。8杯で普通のお蕎麦1杯分とのことですから、約3杯分食べたことになります。しかし上には上があるもので、最高はなんと108杯。恐れ入りました。



午後

・紺屋町周辺散策

早いもので今回の見学旅行も最後の行程となり、城下町情緒漂う盛岡市内紺屋町散策へ。この地域の駐車場環境にも目を向けつつ散策したのですが、月極・コインパーキング含め意外に少ない点にはやや驚きました。古くからの歴史ある街並みということもあるのかもしれません。

曇天だった今回の旅行ですが、この頃から晴れ間が見え始めどんどん気温も上がっていく中散策を楽しみました。明治・大正に建築された建物群を見学しながら、その街並みの一角にある白沢せんべい店へ。

名物の南部せんべいを買って求め、お土産もそろったところで今回の行程は終了となり、第一次解散の場であるJR盛岡駅へ向かいました。私は第一次解散のグループでしたので、JR盛岡駅にて最終解散地の仙台へ向かう方々にバスの中でお別れを告げ、東北新幹線に乗り込み帰途につきました。



参加者一同、事故等もなく無事帰途につくことができ、改めて仙台駐車協会の皆様、全日本駐車協会の皆様に感謝申し上げますとともに、協会会員の皆様のご健勝を祈念しつつ今回のレポートを締めくくらせて頂きます。ありがとうございました。

以上